

環境こそが医療を変える のロールモデルになりたい

対
談
リ
レ
ー

病弱な少女の憧れの職業は優しいドクター
小児神経について学びたい一心で故郷を後に上京し
保育園シッター代で給料が殆ど消えても意欲は変わらず
新生児集中治療室退院のハイリスク児のフォローで
小児科冥利に尽きる再会が実現す
職場のチームと夫の理解が仕事を後押し

三石知左子氏

日本赤十字社 葛飾赤十字産院 院長

1982年札幌医科大学卒業。同年東京女子医科大学小児科入局。1986年同大学母子総合医療センター小児保健部門所属。1992年医学博士取得。1994年同大学講師。1999年葛飾赤十字産院副院長。2006年葛飾赤十字産院院長。小児科専門医、子どもの心相談医。専門は小児保健、ハイリスク児のフォローアップ。
【主な所属学会と役職等】日本小児科学会（男女共同参画推進委員会委員）、日本小児皮膚科学会（運営委員）、東京都小児保健協会（幹事）、日本タッチケア協会（幹事）、NPO ブックスタート（理事）、俳句結社「知音」同人／俳人協会会員
【共著書】『35歳からの“おおらか”妊娠・出産』／監修『知っておきたい赤ちゃん子どもの病気とホームケア』

子育て経験ある女性医師が働ける 医師に大切なミッション教育 後進

西村和子氏

知音俳句会 代表、俳人協会 理事

昭和23年、横浜に生まれる。

昭和41年、「慶大俳句」に入会、清崎敏郎に師事。平成8年、行方克巳と「知音」創刊、代表。

【句集】『夏帽子』（俳人協会新人賞）『窓』『かりそめならず』『心音』（俳人協会賞）『鎮魂』『季題別西村和子句集』『椅子ひとつ』

【著書】『虚子の京都』（俳人協会評論賞）『添削で俳句入門』『季語で読む源氏物語』『俳句のすすめー若き母たちへー』『気がつけば俳句』『子どもを詠う』『季語で読む枕草子』【共書】『名句鑑賞読本』西の巻・藍の巻、『秀句散策』

職員家族とのコミュニケーションは写真とメッセージ
「イクボス宣言」提案が環境整備の動機付けに
年増の厚化粧と言われた病院の修繕から
区を巻き込んでの新病院の土地探し
「母と子の病院」をコンセプトに新病院は完成に向かう
緊張と多忙な日常をリセットできる俳句を傍らに

歌舞伎が縁ではじめた俳句

西村 今日は、俳句を通じて知り合った葛飾赤十字産院の院長の三石知左子さんをお訪ねしました。初めてお会いしたのは何年前でしょうか？

三石 15年くらい前でしょうか。俳句は歌舞伎の一幕見の「ひとまく会」というグループがきっかけで、その句会に参加するようになりました。西村 歌舞伎を観るようになったのはいつ頃ですか？

三石 女子医大の小児科にいた時、健診をした男の子のご両親が歌舞伎役者の市村萬次郎氏、奥さんが京劇女優だった潔子さんと、とても馬が合って誘って頂きました。その時のお子さんは次男の光さんで、萬次郎家の自主公演では長男の竹松さん共々、外国人のために、英語と中国語で解説をなさっています。今年の秋も予定されています。

西村 京劇女優の奥様は中国の方ですか？

三石 いえ、日本人でご実家が葛飾と言うご縁です。高校卒業後に台湾で京劇の女優になり、帰国した当時、市川猿之助さん（今の市川猿翁

さん）が中国を題材にしたお芝居を始めるということでお声がかかり、それがきっかけで二回り年上の萬次郎さんと結婚されたそうです。竹松さんも女子医大生まれで、その当時の産婦人科の教授秘書さんが萬次郎さんの後援会の方だったんです。その後援会つながりで「ひとまく会」に参加しました。この会は月に一回、歌舞伎座近くの居酒屋でお酒を飲んで、その日の最後の一幕の時間になったら上にあがって歌舞伎を観るのですが、その中に俳句を趣味にしていた人が何名かいて、頭数が足りないから貴女もと言われ、俳句のハの字も知らずに嫌々という感じで「ひとまく俳句の会」に参加しました。そして西村先生にご指導いただきようになつて又熱心にお誘い下さったので、本腰を入れてやるのもいいかなと西村先生の初心者クラス「ボンボヤージュ」に入りました。

西村 そうですか、ひとまく俳句の会はどのぐらいの頻度でしたか？

三石 2、3か月に一度でしょうか。

西村 そもそも歌舞伎の一幕見のついでに俳句も楽しもうという会ですよね？私も歌舞伎に興味があつたので依頼がきた時、面白そうだなと

思つて引き受けました。15年位前でしたか、ひとまく俳句の会は定年退職した人ばかりで、現役の三石さんが一所懸命句会のお世話をされていたのを見て、すごいなと思いました。あの頃おいくつでしたか？

三石 40代半ばですね。

西村 若い人が俳句に興味を持って下さるのなら、ちゃんと勉強した方がいいと思つて、夜の初心者句会にお誘いしたんです。

三石 ひとまくの様なつもりで行つたら、全然違つて、ビシバシ（笑）でも、参加されている皆さんからすごく刺激を受けましたね。

西村 初心者クラスは3年間で必ず卒業しなければいけないので、やる気のある人にはその3年間に「多作多捨多読」を徹底的に仕込んで、句会のマナーも含め、俳句を一生続けるには、ためになる会です。とても忙しかつたと思いますが、殆ど休みなく来られましたよね。

三石 第一木曜日の夜は自分の為の時間ということで整理をしたので、あまり休まず連絡幹事もやらせて頂きました。

西村 三石さんが指導係やお茶係

等いろんな係を作つて下さつたので、今でも踏襲されている筈ですよ。流石現役は違うな、と思いましたがあの時俳句が一生の趣味になると思いましたか？

三石 覚悟を決めて入りましよし、本当に尊敬する先生の下で勉強出来るのはありがたく、続けたいと思つていました。

西村 3年間で卒業ですが、そこで出会つたお仲間もとても人間的な魅力のある人達ばかりで、かなり親密にお付き合いが続いているようですね。

三石 本当に貴重ですが、ごく大きな財産です。医者付き合う範囲は限られていますし、先生の所に来られるのは様々な立場の方達でしたので、世界が広がりました。

西村 夜の句会そのものが異業種交流会だと思つています。今でも20代の学生から70代の人達まで、様々な職業の人達が俳句を仲立ちにして俳句を語り、句会の後の飲み会ではいろんな話が出て、異業種との交流は私も楽しいです。卒業した後も句会には参加されていますよね。現在ほどれぐらい句会に出ていますか？

三石 京橋教室とかずのこ会と、

同人句会、基本的にはこの3つです。

西村 私は知音という結社をやっていますが、同人というのは初心者には遠い道で、ある程度の安定した成績が得られないと同人にはなれません。でも別に同人にならなくても俳句は楽しめるのですが、三石さんは割と早く同人になられて、忙しいのにその同人句会の幹事もして下さっています。本当に知音になくてはならない方なんです。

子育てをしながら働くということ

西村 十数年お付き合いをしていますが、お仕事の間にお邪魔するのも、白衣姿でお会いするのも初めてですね。日本は今、女性が活躍出来る社会にと言っていますが、結婚して出産してその間も休まず仕事を続けられた道のりをぜひ聞かせて下さい。医学を目指した方は止めようとは思わないんですか？

三石 基本は、一生続けるというのが大多数だと思います。札幌医科大学を卒業後は殆ど母校の医局に入るので、女子の医学生は卒業後の道筋がなかなか見えない時代でした。

1982年、小児の神経を勉強したくて、その頃小児神経のメッカだった東京女子医大の小児科で2年間だけ東京で勉強したい、その後戻ってから親を説得しました。親から「どうして卒業して医者になるのに仕送りをしなきゃならないの」と言われましたが……。

仕事をすることも困難ではなかったわけですね。

三石 究めたいと言うより、2年でも外の世界を見てみたい、そのまま母校に残ると周りの事が何にも分からない状態になるようで、勿論東京に出たいという事もありましたが、勉強したいというのが第一でした。それで、女子医大ですから卒業生は女性だけです。小児科は圧倒的に女性が多

く、当直も子どもを持つている先生がちやんとやっておられます。

西村 小児神経の道を究めたいと思つて？

三石 夫の母と同居したので助かりました。その頃新生児に興味がありました。NICU（新生児集中治療室）でずっと仕事をするというのには向かないと思つていました。でも、早産の赤ちゃんが予定日ぐらい迄保育器の中で育つて、普通に3000gで生まれた赤ちゃんと同じ様に成長するかというと、そうはいかない場合もありますし、親御さんもすごく心配されます。そういうハイリスクの赤ちゃんをフォローする小児保健の部門へ産休明けに来ないかと上司に声をかけて頂きました。そこは外来だけで病棟がないという非常に稀有なポジションで、そういう環境もあつて働くことができたので恵まれていました。

西村 特別進んでいた世界ですね。

西村 保育園に預けた息子さんのお迎えは義母様ですか。

三石 ロールモデルが身近にいたということが大きかったですね。そこで同じ小児科の夫と知り合つて結婚しました。

三石 同じ頃出産した義姉も仕事を定時で帰れない為、義母に頼むのは無理でした。結果、私か病院で働いている看護助手さん達数名でチームを組んで息子を迎えに行つてもらいました。

西村 じゃあ、親御さんとの約束は破つちやつたのね(笑) 結婚後は、

西村 いわゆるベビーシッターをお願いしたわけですね。

三石 保育園の料金と更にシッター代で私の給料は殆ど消えました。夫は私が働くことに対してウェルカムでした。

西村 それでも続けたいという意志があたりだったのです。でも、子どもが生まれると想定外の事ばかり、熱を出したり、怪我をしたり、そんな時心の中でつまづいたり、「辞めようか」と思いましたか？

三石 ええ、今は学会でもベビールームを用意してくれますが、あの頃は自分で手を配をしたり札幌の母に学会まで出てきて面倒をみてもらい、その後娘孫の3人で少し旅行……という感じでした。

西村 見えない所でやっぱりそれなりの苦しさも努力もあつたわけでしょう？

三石 私に限らず皆そうですよ。ただ、自分の経験を現代の若者にあまり押し付けられないですね。「それは昔の話です」って。

西村 そこをカバーするのが政治家や社会の仕組みだと思います。私は専業主婦で俳句は趣味でしたから、



経済的なことは俳句で使う分ぐらい

は自分で何とか算段しましたが、仕事を続けるということとは本当に大変な時代だったでしょう？ 東京都は

「今後1、2年の内に待機児童をゼロにする」と言っていますが、どう思われますか？

三石 ゼロにはならないですよ。ね。「そういう状況だったら働こうかしら」って出てきますよ。

西村 働くことを諦めている女性が沢山いるということを忘れていませんか。

三石 瞬間的なゼロにはなるかも知れませんが、恒久的な解決は難しいですね。

西村 仕事上で、女性ゆえの難問とか難関はなかったですか？ 又同じ仕事をしている周囲の女性達はい

かがでしょうか。

三石 お陰様で私は直接そういう事はありませんでしたが、やはり子育てで仕事を続けたくても続けられない、辞めざるを得ないという人は沢山いましたね。子どもを産んで育児があることで「M字カーブ」となり、一

番働いてもらいたい時に離職され、下がったMのボトムはなかなか回復しない、これが困るんですね。今や医学部卒業の3人に1人は女性です、様々な診療の分野で女性医師がちゃんと働ける環境がないと医療は崩壊してしまいます。病院にきた20年前、産婦人科・小児科とも男性で女性は私

だけでしたが、現在は産婦人科に男性医師は副院長と部長だけで他の7人は女性です。しかも独身者が2人のみ、妊娠中の人もいるし、あとは子

どものいる人達です。医者は24時間勤務なので、当直や土曜の午後、日曜は大学に応援して頂いたり、その内に子育て中の女性医師も土曜日の午後、日曜の日中や夜に入る様になってきています。「お互いさま」というのが循環として流れてくるとうまくいくのかなと思います。

西村 院長さんになってからローテーションとか処遇を考える面でもご自身の子育ての経験が、大いに活かされていますね。

医師として、病院長として

女性だからできたこと

西村 その他、女性医師だから出来た事はありませんか？

三石 院長になった時に「子育て支援をしたい」と思いました。現在は「子育て支援」と言うより「キャリア継続支援」です。病院内に保育園を設けると国や都道府県が補助金を出してくれませんが、当院の様に職員数が200人ちよつとの規模では保育園を設けると大赤字です。それで職員3人のチームで院内ヒアリングをし

てもらい出てきたのが「保育料の補助を」ということでした。結局院内に保

育園を設けても満員電車で子どもを連れて来るのは難しいので、自宅近くの保育園に預けて保育料の一部補助をとというのが、職員が均等に病院の援助として受け入れられると言われ、「なるほど」と思いました。子どもは地域で育つもの、自宅近くの保育園に預けて保育料の一部を病院で援助することにしました。そして共働

きなら男性にも補助を出すことにしたら職員には非常に感謝されました。
西村 そうでしょう、都知事に聞かせたいですね。女性ならではのきめ細やかさですよ。小児科医としての仕事で、女性だから出来たということはありますか？

三石 やつぱり小児科や産科で女性性は絶対有利ですよ。特に出産を経験した産科の先生は、陣痛の痛みやお産の大変さは身を持って言えますし、小児科は一通り子育てをすること自体が小児科の教科書に載っていない「行間」にあるようなものがわかります。

西村 私は2人産みましたが、「案ずるより産むがやすし」なんて真つ赤な嘘ね、あれは男性が作った諺、生みの苦しみというのが本当のところよ。

世の中、男性と女性しかいない中で「産む」ことが出来る女性が身をもって体験した事をもっともっと仕事や社会に活かすべきだと思っています。

三石 本当にそうですね。

西村 仕事を持つ女性として、医師として、これからの女性に何かメッセージはありますか？

三石 医師であれば、すごく膨大なお金をつき込まれて医者になっているわけですね。そういう意味ではきちんと社会に還元するというのは大事だし、そのミッションを忘れないでほしいと思います。今は臨床研修医制度ができて研修医にもきちんとお給料が支払われ、時間外労働についても残業代が支払われ非常に恵まれているのに、「私生活を犠牲にするような勤務体制になる診療科には行きたくない」と外科医の志望が減ったり、診療科の選び方が安易になってきている様です。もっと医学部で「ミッション」の教育をしてほしいと思います。医者としてのものは、昔から普遍的に病める人、困っている人に手を差し伸べて医療を提供する事が非常に大切で、女性にも、そういう事を細く長く続けて欲しいですね。子育て中、すごく焦り

があった時期もありましたが、女性の方が長生きなので終生続けられる医師の仕事は、そういう意味ではどこかで取り戻せる時間があると思います。

西村 やっぱりね。私の場合は俳句でしたが、子育ての最中に焦りを感じたことはありましたよ。でも、振り返ってみると、子育ては長くてもせいぜい15年程で本当にそのあとの方が長いわけですね。

三石 ただ医者として一番修練できるいい時期は、子育ての時期と結構重なったりします。外科系の医者は思うようにオペが出来なかつたりとか。

西村 ミッションはあとに続く人達に大事なメッセージですね。小児科のお医者さんになって何年ですか？

三石 1982年からですからもう36年ですね。

西村 子どもを取り巻く環境も大きく変わったのでは？

三石 病気自体も変わりました。予防接種がすごく増えたので重症の赤ちゃんが減りました。先日、はしかの騒動がありました。ワクチンが普及しているのが今の若い先生は、はしかを診たことがないですね。

西村 昔の疱疹と同じですね。今は疱疹の患者さんが増えてきたことないでしょうか？予防注射の普及で、すごいですね。

三石 ヒブワクチンとか肺炎球菌

ワクチンというのは、生まれて1、2か月の赤ちゃんの髄膜炎の原因となる菌ですが、現在は、それも殆ど「幻」の状況で、病気が大きく様変わりしてきています。ですから小児科に入院する患者さんも減って採算が合わず、経営として小児科を持つことが難しい病院も増えてきています。

西村 それだけ医学が進歩したということですね。

三石 でも逆に、相対的にアレルギーの患者さんが増えてきています。

西村 それは何故ですか？

三石 複合的に様々な事が絡んで

います。昔は、食物アレルギーはそれほどでもありませんでした。ひとつ判ったのは、スキンケアをしつかりすれば食物アレルギーも防ぐことができるということですね。

西村 赤ちゃんの時からスキンケアですか？

三石 手でよく洗って、よく保湿をすることが大事です。

西村 昔はタオルでゴシゴシ洗いましたけど、大人もですか？

三石 ええ、年齢が重なってくると皮脂欠乏症で脂の分泌が悪くなつてかゆみが出てきますが、保湿によって乾燥が防げます。赤ちゃんの場合は、掻いて傷になった箇所からアレルギーの原因となるものが入ってしまうんですね。

西村 予防注射の普及でいいこと



も勿論あるでしょう、一方で虐待とか痛ましい話も耳にしますが、現場ではどうですか？

三石 虐待は昔もあつたと思いますが表に出てこなかったんです。今は通報や事前に察知しようという動きがあるので見え易いということもあるでしょう。それでも昔よりも増えているのかな、と感じることはありますね。生活の困窮を抱えている方には、分娩費用を公的に負担するという「入院助産」という社会制度があり、

当院ではその制度が使えます。「特定妊婦」といって、生活が困難、複雑な社会的背景や、シングル、又親に暴力をふるわれ家出をし、妊娠した人、それに精神疾患を持つている妊婦さん等も増えています。当院でお産をする

と小児科でも母親の情報が共有できるので、外来受診とか予防接種の時には気をつけて見守るようにしています。「不安だな」という時は児童相談所に連絡したり、地域の保健師さんに自宅訪問を要請します。

西村 明らかに虐待を受けている、という子どもが来ることもありませんか？

三石 青あざがあつたり、不自然

なところにやけどがあつたりすれば、お母さんに訊き、スルーしないようにしています。また洋服が汚いままだったり、体重が増えていないと「ネグレクト」といって育児放棄を疑うこともあります。電子カルテに、病院スタッフが様々な情報を共有できるサイトがあるので、気になることがあれば書き込むようにしています。

西村 小児科医になりたいと思われたきっかけは、何ですか？

三石 こう見えて病弱だったんですよ。

西村 え、信じられないわ(笑)とても頑健で大活躍しておられるから。

三石 よく熱を出して小児科に行っていましたし、ホームドクターの先生もすごく優しくて身近に感じていたので、医者には憧れの職業でした。

医学部に入って「何科を選ぶか」という時にすごく迷って消去法で決めました。神経内科に興味がありました。最近はいPS細胞を使ったパーキンソンの治療法も出てきて画期的ですが、その当時は神経疾患は診断するところまでで、病状が悪くなっていくばかりの人を診統けるのも……と思っ

たりする中、小児神経はちよつと魅力的で選びました。東京女子医大はその分野ではトップでしたが、私のイメージとは違つててんかんの患者さんが多かったですね。

西村 てんかんも神経ですか。

三石 そうです。その頃、ローテーションで半年間NICUで新生児医療を学びましたが、新生児はかなりの重症で生まれてきても治療をすらすごくドラマティックに良くなります。NICUは緊張度の高いところなので魅力的だけれど私には向いていないと感じていました。そこに産休明けでNICUを退院した赤ちゃんのフォローの仕事をしたときNICUに近い所で働けるというのは、とても幸せでやりがいを感じて、500gとか600gで生まれた赤ちゃんをフォローしていました。1999年に

葛飾赤十字産院に副院長で来て院長になつて、看護職の採用の面接の時です。受験者の看護大の学生さんに「貴女はどうして助産師になりたいと思つたの？」と訊いたら、「私は東京女子医大で生まれて、20何週、900何gで……」と言うんですね。事前にちゃんと履歴書を見ていなかったため、お

もむろに彼女の顔を見て改めて履歴書を見たら、女子医大で私がフォローしていた子でした。おもわず「えー、マイちゃん!」と叫んでいました。

西村 それは驚いたでしょう？

三石 本当に小さくて……お母さんに抱っこされてた華奢で小柄な子が、四年制の大学に入つて、大きくなつて当院に応募してくれて、思わずその場で「採用する」と言つたんですよ(笑) 隣にいた事務部長が「先生、それはやめて下さい」つて慌てて。勿論成績も面接の点数も高く、合格して4年程一緒に働いてくれました。小児科という診療科だったからこうして一緒に働く機会があり、小児科冥利に尽きましたね。

赤十字全92病院で

「イクボス宣言」

西村 「イクボス宣言」をなさっているとのことですが「イクボス宣言」というのは、どういうものですか？

三石 厚労省のサイトにも掲載されていますが、職場で仕事と私生活の両立を支援するリーダーのことです。赤十字には92の病院があつて、その院長で組織している日本赤十字社病



院長連盟が年に数回会議をします。せつかくの集まりなので、ファザリング・ジャパンが定義をしている「職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス（仕事と生活の両立）を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らの仕事と私生活を

楽しむことができる上司」という「イクボス宣言をしませんか？」と提案したら連盟の会長も賛成してくれて、決議を取ってイクボス宣言を出しました。写真を撮って、ポスターをつくりましょう、ということになって、ポスター制作の方から「キャッチコピーが必要ですね」と、それで私が「ボスが今、試される。ってどう？」と言ったらそれで決まって、ポスターが完成し、全国の赤十字病院に配って院長

室や皆に見える所に必ず貼っていたようにしました。

西村 それで、イクボスは育っていますか？

三石 どうでしょう。ただ、こうした行動自体が少しでも動機づけになればいいな、と思っています。

西村 意識は変わりますよね。まさに「ボスが今試されている」時代です、環境整備もボスの責任になりますから。

三石 赤十字の中でも、取り組みは様々です。全赤十字病院で女性の院長は私一人、女性の副院長は3人、診療部長は2256人中146人と、たった6.5%、この数字は私と同世代あるいは少し下の世代で、病院勤務医として継続的に仕事が出来ていく人間が少なかつたという結果です。少しでも部長になる女性が増えるように数字を出しながら発表して意識づけをするというのは大切な事で、時々させていたいています。

西村 数字を見ると暗澹とすることがありますね。国会議員の女性の比

率だとか、経済界で活躍している女性の数だとか、まだまだ日本は遅れているな、と感じます。先日行った、スウェーデンのバルントウーナの町長さんが女性で、古い教会に行ったら牧師さんも女性なの。ウプサラのリネ博物館の庭で働いている人も女性で

した。スウェーデンでは、かなり女性の社会進出が進んでいて、いろんな場面で働いている女性に出会いました。やっぱり、三石さんの様に、社会に出て自分の分野で生き生きと仕事をしたい人が、もともとと増えてほしいと思います。

三石 少しでも、後に続く人達のロールモデルになればいいなと思って……。私自身、副院長としてここに来て、院長になる時、院長は自分で最終決断しなければならぬので、それが自分出来るかと不安でもありました。赤十字病院の院長は70歳

定年ですが、前任の院長が60歳の時に「やりたい事があるからもう60歳で辞める。後のことは宜しく」とおっしゃられ、私は「困ります、辞退します」と申し上げたんです。「1回は院長をやってみて、面白いよ」と言われても困りますよね。その時、女子医

大時代の上司だった山口規容子先生が愛育病院の院長をされていて、身近にロールモデルとして先生がいらしたので非常に力強かったですね。

西村 院長に就任されて12年、自然体でいらつしやいますね。

三石 2006年の4月に院長に就任する前に、まず札幌の両親に連絡しました。その時父から「とにかくテレビで頭を下げる様なことはして欲されるな」と言われて(笑) そして「どんなに小さな施設でも、職員がいてその背後には家族がいる、それだけの責任を負っていることを忘れるな。あとは頑張り」と言われました。院長になって1年程経つ頃、両親がこっそり早い便で羽田に着いて当院を見に来たそうです。あとで知って、娘がいくつになっても親はいろいろと気にかけてくれるんだあ、と実感しました。

西村 三石さんはいろいろと病院の改革をなさったそうですが。

三石 病院のハード面ですよね。すごいボロボロでしたがお金もない大赤十字の病院だったので、前の院長は自分でハケとペンキを買ってきて壁塗りから始め、それに賛同した職員が一緒に協力をし、そうしたら減少し

ていた分娩数も徐々に増えてきた頃、その上昇気流に乗るタイミングで副院長として呼ばれてきたのですごく恵まれていましたね。

西村 ソフト面でも、職員の皆さんとコミュニケーションを取られて変わってきたとか……。

三石 院長になってから心がけている事のひとつは、職員のご家族とのコミュニケーションです。自分の親が「どういう病院だろう」と見に来たというのがあります。職員の親御さんも娘の職場環境はなかなか分かりませんよね。当院は病棟が2階、3階、4階とあるので、フロア毎に師長と看護部長と新人の写真を撮って、新人に「この写真を一番見せたい人」の住所を封筒に書いてもらい写真と私のメッセージを送っています。メッセージは、挨拶に加えて、医療現場は非常に厳しく憧れて入ってきて大変なことがあると思うけれど、そんな時には親としてサポートして欲しい、というような内容です。最近では心を病む新人看護スタッフも少なからずいて、親は「体どういう事があったのか」と思うわけですね。でも、医療の場は決して理想通りにいかない、すごく大変な所なので

心して、親御さんにもご理解いただき、というメッセージを送っています。それによって少しは親御さんが理解して下さっているのかなと、思っています。「娘の制服姿を見てすごく嬉しくて、リビングに飾ってます」とか、お返事を頂くと嬉しいですよ。

西村 学生時代でしたら制服を着た写真もありますけど、就職してからはお仕事をしているところの写りはなかなか見るチャンスがないので、安心されますよね。この病院は、葛飾区長から「葛飾の宝」と言われたとか、素晴らしいですね。

三石 この病院は1983年に建設、古くて、前任の院長は「年増の厚化粧」と言って自らペンキで壁を塗っていたぐらいです。耐震診断では一部不適と指摘され、建て替えはずっと抱えている命題でした。現地建替は無理で土地を探すとしても相応の土地はなかなかなく、そこで思っていたのが区に協力してもらえないか、せっかく当院の向かい側に葛飾区役所があるのに殆ど行き来がなかったため、区長さんが2期目の当選を果たして落ち着かれた頃に、事務部長と一緒に祝いのご挨拶に伺いました。区

長さんは私達が何を目的に来たのか多分わからなかったと思います。「うちの息子も葛飾日赤さんでお世話になりました」とおっしゃられて。それで、「葛飾赤十字産院も非常に古くなつて建て替えを考えているけれど、思うような土地がないので、出来れば区の方で何とか協力頂けるとありがたい」と申し上げました。葛飾区民の4人に1人はうちで生まれているので区長も「葛飾区にとって葛飾赤十字産院は、本当に宝です」とおっしゃって下さったんです。続けて「宝ですが、すぐには何も出来ません」ですって(笑)

西村 まあ、そんな事があったのね(笑)

三石 すごくがっかりして、もう無理かなと思いましたが、あとで副区長に聞いたら、区長はすぐに「土地を探せ」と指令を出して下さったそうで、「新宿という所の図書センターが解体予定ですが、そこでどうですか」ということになり、来年には引き渡し頂く予定です。地元の要望もあって、新しい病院には区の図書センターも入ることになっています。それについては、当院の「母と子の病院」とい

うコンセプトに相応しい本を中心に置きたいとおっしゃって下さいました。

西村 それはいいですね。三石さんは、お仕事はとても充実していらっしゃると思いますが、プライベートの趣味はやはり俳句ですか？

三石 本当にいい楽しみを先生から頂戴したと感謝しています。

西村 これからも女性らしい優しさで繊細さで多くのお子さんを見守って下さい。今日はどうもありがとうございました。

三石 こちらこそありがとうございます。

